

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9-29
自己評価作成日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

老人保健施設と併設されておりナースが24時間勤務している。ドクターも施設に常駐しており朝の申し送りの時も参加し夜間時の様子も確認できている。発熱、転倒のときも直ぐにナースへ報告、ナースが主治医に報告して主治に指示で、早急な対応が出来る。そのため大事に至らず入居者、家族の皆さんに安心して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であるため、利用者や家族は医療的な安心感を求められることが多く、ホームもそれを最大の特徴として認識し、ニーズに答えられるよう職員の質の向上のための研修を行う等、体制を整えている。介助が必要な利用者が多く、ユニットによってタイプの違うリフトが設置されており、利用者の身体状況に応じて、安全に入浴できるように設備も整えている。管理者を中心に職員全員で情報を共有しながら、利用者本位の支援ができるよう日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) たんぼぼ

記入者(管理者)

氏名 乗松 千花

評価完了日 平成22年1月25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 里の家独自の介護理念を作り代表者、管理者、職員で毎朝申し送り時に復唱する事でしっかり意識づけし、日々実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で作上げた理念を、申し送り時に復唱する等職員全員で共有して実践につなげている。また、各ユニットの見えやすい位置に貼り、常に意識できるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事に参加したり運営推進会議を開催し、行事の呼びかけをし交流を図っている。職員も地域の方との挨拶や、広い庭園を通して交流が図れるよう呼びかけを行なっている。</p> <p>(外部評価) ホームの夏祭りに近所の方にも来てもらったり、町内会長と連絡を取り合い、秋祭りで獅子舞を近所の方と一緒に見たりしている。また、ホームの庭や駐車場は近所の方の散歩コースになっていたり、親子で三輪車で遊ぶなど、自由に出入りしてもらっている。</p>	複合施設であるため、日常的なつきあいは難しいところもあるが、現在行っているような活動を通して交流をさらに深めていくことを期待したい。また、近くの幼稚園や小学校との交流も利用者にとってよい刺激になると思われるので、試行されることも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して施設の実戦経験を活かし、地域におけるケアの拠点として機能して行ける様に努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、現状いろいろな取り組みの状況や、行事の報告、話し合いなど意見交換を行いサービス向上に努力している。	
			(外部評価) 地域の方や家族等、多数の参加を得て、利用者の様子やホームの状況等を報告し、活発な意見交換をしている。また、地域行事の情報収集や参加依頼等も会議を通して行い、サービスの質の向上のために有効に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者と日頃から連絡を取り、ケアサービスの取組みや困難事例の相談もさせて頂くなど協力関係は出来ている。	
			(外部評価) 運営推進会議にも積極的に参加し、意見等も出してくれている。困難事例の相談も気軽にでき、どんなことでも丁寧に対応してくれ、良好な協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎月行なう施設での職員の勉強会で全員が理解出来る様にしており、身体拘束をしないケアに事業所として取り組んでいる。	
			(外部評価) 複合施設の構造上の理由から、ホームのある3階部分だけのロックを外すことが不可能であるため、出入口は施錠されている。外出可能な利用者には、解除番号を教えたり、職員が常に気をつけてロックを解除するようにしている。身体拘束については勉強会を行い、職員全員で学習している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について学ぶ機会を施設の勉強会で持っている。また職員間で入浴時の小さな異常や、会話の中で虐待が見過ごされる事がないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在必要と考えられる利用者の方はいないが、施設での年間の勉強会では取り入れている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に訪問調査を行い、その場で家族、利用者を交え十分な話し合い、また不安に対する説明を行い理解や納得を図っている。同時に重度化に伴う対応の説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の要望を聞いたり話す機会を設け、運営に活かしていく体制を取っている。	
			(外部評価) 意見箱を設置し、また家族の来訪時や電話で連絡する際に意見や要望を聞いている。家族とは気軽に話せる関係ができており、意見や要望は管理者や職員に直接伝えてくれている。出された意見や要望は会議等で検討し、運営に反映するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会を月1回行い話し合いを行っており、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映出来る様に努力している。</p> <p>(外部評価) 毎月管理者も参加してユニット会を開催し、職員からの意見等を聞き取っている。必要なことは管理者から代表者に伝え、代表者からの回答も職員に伝えている。管理者は、職員が意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務状況では外出行事の際人数多めに組んだり、ボランティアを頼むなどして調整を行い、職場環境、条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内での勉強会で職員を育てる取組みはされている。最近は一入ひとり研修を受ける機会が多くなってきたように思える。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 昨年からの地域内の同業者と交流する機会が始まり、数名が参加できた。少しずつ相互訪問の機会を増やせるように取り組んでいる。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 管理者、リーダーが自宅に赴き本人、家族から不安な事、困っている事など聞く機会を設けて、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、リーダーが自宅に赴き本人、家族から不安な事、困っている事など聞く機会を設けて、家族の安心を確保するための関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 開始前の話し合いで本人、家族が必要としている支援を見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし少しの時間でもコミュニケーションを取り、間に入って暮らしをする上で支え合う良い関係を築いていけるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族から話を聞き共に支え合って行ける様に努めている。面会に来られた時などに様子を伝えたり、次回もまた来てくださる様声かけして、家族と疎遠にならないように心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも自由に面会出来るため近所の方は度々来て頂いているが、事業所として友人や、商店、行きつけの場所へお連れする事は困難な状態である。 (外部評価) 利用者にとって大切な人に会いに行ったり、ドライブを兼ねて以前住んでいた地域に行くなどしている。また、新たな馴染みをつくるために併設施設の行事に参加する等、意識的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりが孤立しないように職員が中に入り声かけをし、フロアに出て来てもらいコミュニケーション作りに励み、関わり合い、支え合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他事業所へ移られた時は面会に行き関係を断ち切らないつきあいをおこなっている。また移り住む事へのダメージが最小限に食い止とめれるよう本人、家族の了承のもと情報を詳しく伝えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活での話しから希望を聞いたり、カンファレンスの際に希望、要望を聞き一人ひとりの思いを把握出来る様に努めている。 (外部評価) 人前では遠慮して思いを伝えてくれないことが多いので、入浴や散歩等の機会をとらえて聞き取ったり、日頃の言動や表情等からも汲み取るよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から今までの暮らし方、生活環境をしっかりと聞かせて頂くことで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人ケース記録、日誌に毎日記録を行い現状把握に努めている。申し送りもしっかり行い職員全員が一人ひとりの心身状態など把握出来る様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスは入所1ヶ月後と後は3ヵ月に1回実施している。家族にも連絡を取り参加してもらっているが、参加出来ない場合は要望等聞いて本人の意向も交えて介護計画に反映している。 (外部評価) 利用者や家族の意向・要望を聞き取り、介護計画に反映させるよう努めている。また、利用者の状態に変化があった場合は速やかに計画を変更する等、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や気づきは毎日記録している。何かあれば職員間で話し合ったり、連絡、報告は確実につながる様にして職員間で情報を共有して計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時の本人や家族の状況、ニーズに柔軟な対応が行なえている。デイケアの体操教室、ゲームなどに参加したり他の事業所との関わりを持って過していただくなど柔軟な支援を提供できるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事の時にはボランティアを依頼している。また年に2回は消防訓練を行い、消防署員にも来て頂き安全に暮らしていけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関は入居者、家族の判断で選択されており、か かりつけ医の受診を自由に受けられている。行きつけ の歯科、眼科も受診されたり、往診も自由に来て頂い ている。 (外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医を受診でき るよう支援している。また、代表者は医師であり、常に 連絡が取れる体制を整えている。他の医療機関との連 携・協力もしっかりできており、利用者や家族にとっ て安心できる環境が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) いつもと状態が違う場合はナースに必ず報告をして相 談して個々の利用者が適切な受診、看護を受けられる よう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は介護サマリーを書き病院関係との情報交換や 相談が出来ている。退院時は家族と一緒にドクターからの 説明を聞き早期の退院に向けた関係作りを行なってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合は早い段階から、本人、家族にドクターか らの説明を行い、終末期のあり方についても事業所で 出来る事を十分に説明を行い、家族、医療と方針を共 有しチームで支援に取り組んでいる。 (外部評価) 母体が医療法人であるため、職場内研修は看護師等の 医療従事者を講師として定期的に行われている。早い 段階から医師による説明も行い、家族も医療体制が充 実していることに安心感を持っている。また、職員だ けでなく利用者も一緒にお見送りをしてもらおう等、精 神的な支援体制も充実している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設の勉強会で学んだり、応急手当の訓練をするなど実践力を身につけるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災訓練は昼間、夜間の想定で年2回行なっている。また地域との協力体制を築く事が出来るよう働きかけている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、火災を想定した訓練を定期的実施している。現在、地震についてのマニュアルを作成しているところである。また、ホームを災害時の避難場所として提供する等、協力を依頼するだけでなく地域の一員としての役割を担い、地域との協力体制を構築するよう努めている。	現在取り組んでいる地震対応マニュアルの作成をすすめ、利用者がさらに安心して生活できるような体制を確保することを期待したい。また、緊急連絡網を活用しての訓練など、さまざまな場面や状況を想定して訓練を実施していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを確保出来る様に言葉かけや対応を心掛けている。 (外部評価) 職員の声かけや態度等で気になったところは、管理者がその都度注意している。職員は、個人記録が他者の目に触れないよう細心の注意を払っている。写真を使用する場合も、利用者や家族に確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつ時の飲み物や毎日着られる服を利用者に選んで頂くなど、利用者の思いで決定してもらえよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や食事の時間など一人ひとりのペースを大切に、希望にそった暮らしが出来るよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に1回理容、2月に1回美容と来て頂いてカット、毛染め、パーマもその人の希望で受けられている。洋服や、化粧などもその人らしいおしゃれ出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 月に1回夕食作りや、昼食作りを計画して、利用者のリクエストメニューを楽しんでもらっている。材料の下ごしらえや食器の片付けなども手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 利用者にも、簡単な食材の準備や後片付け等を無理の無い範囲で手伝ってもらっている。偏食のある利用者にもバランスよく食べてもらえるよう、職員が優しく声をかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量、水分量は記録している。少ない方にはその都度声かけして、必要な栄養、水分量が確保出来るよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声かけして清潔保持に努めている。自分で出来ない方には職員で口腔ケアをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 100歳近い高齢の方もトイレに一人で行かれたり誘導をしたり、またポータブルトイレの設置など可能な限り排泄の自立にむけた支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄のパターンを把握し、日中はトイレ誘導を基本としている。夜間は睡眠の妨げにならない範囲でトイレ誘導を行う利用者もいる。オムツやパッド、ポータブルトイレの使用等、利用者の状態に応じた方法を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) セサ茶や便秘薬で対応している。腹部マッサージを行ったり、十分な水分摂取の声かけ、運動など取り入れ個々に応じた予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一般浴、機械浴を曜日で分けて行なっているので希望にあった入浴は行なっていない。理、美容の日はその後で入ったりして頂いている。	
			(外部評価) 介助が必要な利用者が多く、ユニットによってタイプの違うリフトが設置されており、利用者の状態に合わせて負担感なく入浴できるよう使い分けている。浴室や浴槽が広く、ゆったりと入れるよう環境が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 食後1時間位休息されたり、夜間眠れない時は温かい飲み物を飲んで頂いたりして気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を見て薬の目的、用法、用量については理解出来ているが副作用については解らない事もある。症状の変化に伴い状態に合った服薬の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物をたたんだり、食材の下ごしらえを手伝って頂くなど楽しみながらされている。買い物に行ったり、散歩したり、俳句作り、壁画作りと一人ひとりの気分転換を出来る様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に何度か家族と外出されたり、職員と近所のコンビニに買い物に行かれる方もある。年間通じお花見、喫茶店、買い物など外出の機会を作ったり。年2回は戸外でバーベキューも楽しまれている。	
			(外部評価) 利用者の行きたいところ等を聞き取り、併設施設の車を借りてスーパーやコンビニエンスストアに買い物に行ったり、喫茶店に行くなどしている。また、駐車場横には畑や庭があり、日光浴等も楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理はほとんど職員で行なっているが、少額は御自分で持たれている方もありジュースや移動パンを購入出来るよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を掛けたい時は職員が番号を押して話されている。希望に応じて電話したり、ハガキを出したりできる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整理、整頓をして危険の無い様になっている。フローアには生活感や季節感を取り入れ、展示物、花を飾るなどして居心地良く過していただくよう環境作りを行っている。	
			(外部評価) 共用空間がとても広いと、殺風景にならないようにいたるところに季節を感じさせる飾りや行事の写真、利用者の作品等が飾られ、華やかである。テレビを見るスペースや足を伸ばして座れる畳の間等、利用者が自由にゆったりと過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フローアにゆったりしたソファを置いていて数人で座って話しされたり、皆さんでテレビを観たり新聞読んだり好きな場所で思い思いに過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具の持ち込みは自由となっている。備え付けのダンスを使われている方もあれば、使い慣れたものを持ち込まれている方もある。懐かしい写真や、お位牌を置かれたりとご本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
			(外部評価) ベッド等は備え付けているが、使い慣れた家具やお気に入りのお気入れの置物等を、利用者の状態や希望に合わせて持ち込み、自由に配置している。利用者の私物を保管できる倉庫があるため、居室を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 全体に車椅子移動が楽に出来る広さがあり、トイレ、廊下など必要な所にははてすりもついて、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れる様に工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9-29
自己評価作成日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

老人保健施設との併設で24時間体制で医療との連携が出来ており本人、家族、職員も安心して対応出来ている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であるため、利用者や家族は医療的な安心感を求められることが多く、ホームもそれを最大の特徴として認識し、ニーズに答えられるよう職員の質の向上のための研修を行う等、体制を整えている。介助が必要な利用者が多く、ユニットによってタイプの違うリフトが設置されており、利用者の身体状況に応じて、安全に入浴できるように設備も整えている。管理者を中心に職員全員で情報を共有しながら、利用者本位の支援ができるよう日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 松田 岳人

評価完了日 平成22年1月25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット内の職員皆が見える所に里の家独自の理念を作り掲示している。毎朝申し送り時に代表者、管理者、職員で復唱し実践へ向け努力している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で作上げた理念を、申し送り時に復唱する等職員全員で共有して実践につなげている。また、各ユニットの見えやすい位置に貼り、常に意識できるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事に参加したり施設での行事にての交流はあるが、日常的には散歩時の挨拶を交わしたりする位である。</p> <p>(外部評価) ホームの夏祭りに近所の方にも来てもらったり、町内会長と連絡を取り合い、秋祭りで獅子舞を近所の方と一緒に見たりしている。また、ホームの庭や駐車場は近所の方の散歩コースになっていたり、親子で三輪車で遊ぶなど、自由に出入りしてもらっている。</p>	複合施設であるため、日常的なつきあいは難しいところもあるが、現在行っているような活動を通して交流をさらに深めていくことを期待したい。また、近くの幼稚園や小学校との交流も利用者にとってよい刺激になると思われるので、試行されることも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通じて施設の実践経験を活かし、地域におけるケアの拠点として機能して行けるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で状況報告を行い、そこでの意見や提案をサービスの向上につながるよう努力している。	
			(外部評価) 地域の方や家族等、多数の参加を得て、利用者の様子やホームの状況等を報告し、活発な意見交換をしている。また、地域行事の情報収集や参加依頼等も会議を通して行い、サービスの質の向上のために有効に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃から連絡は密に取っており困難事例は報告、相談して協力関係を築くように取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議にも積極的に参加し、意見等も出してくれている。困難事例の相談も気軽にでき、どんなことでも丁寧に対応してくれ、良好な協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、老人保健施設と併設されている事もあり利用者も多く、エレベーター、階段の施錠は行なっている。	
			(外部評価) 複合施設の構造上の理由から、ホームのある3階部分だけのロックを外すことが不可能であるため、出入口は施錠されている。外出可能な利用者には、解除番号を教えたり、職員が常に気をつけてロックを解除するようにしている。身体拘束については勉強会を行い、職員全員で学習している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設での勉強会にて学んでいる。入浴時、着脱時に確認して虐待が見過ごされることがないように注意して防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設の勉強会で学ぶ機会は持っているが、現在必要と思われる方が居ないため活用には至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結、解約の説明は事前に行って同意も得ている。重度化に伴う説明も同時にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 随時聞いており面会時やカンファレンスでも意見、要望を聞き運営に反映させている。	
			(外部評価) 意見箱を設置し、また家族の来訪時や電話で連絡する際に意見や要望を聞いている。家族とは気軽に話せる関係ができており、意見や要望は管理者や職員に直接伝えてくれている。出された意見や要望は会議等で検討し、運営に反映するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 全体会や月1回のユニット会にて話し合っている。その他にも個人レベルからでも相談、意見を聞く機会を設け反映させている。</p> <p>(外部評価) 毎月管理者も参加してユニット会を開催し、職員からの意見等を聞き取っている。必要なことは管理者から代表者に伝え、代表者からの回答も職員に伝えている。管理者は、職員が意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 人員確保が困難な職種であるが、職員が長期にわたって働ける環境整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内での研修は毎月行なっている。法人外の研修を受ける事が出来るよう少しずつ進めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 昨年より地域の同業者と定期的に交流する機会が出来た。今後相互訪問を増やしてサービスの質を向上させていく取り組みをしていく。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に本人の困っている事。不安な事などに耳を傾け安心を確保出来るよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に家族の、困っている事、不安な事に耳を傾け安心を確保出来る様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、家族と話をする段階で事業所で支援出来る事、それ以外の支援の必要があれば事業所で出来る事以外のサービスも提供できるよう、話し合いが出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活感や時代背景を把握し、その人らしさを大切に共に過せる関係を築くことが出来るよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回の便りと3ヵ月に1回のカンファレンスで状況の説明、要望の確認を行っている。家族と協力しながら利用者を支えていく支援をしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と外出の時馴染みの人や場所に行かれているが、事業所として一人ひとりの馴染みの場所に連れて行くことは困難である。 (外部評価) 利用者にとって大切な人に会いに行ったり、ドライブを兼ねて以前住んでいた地域に行くなどしている。また、新たな馴染みをつくるために併設施設の行事に参加する等、意識的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話が困難な時は職員が仲に入ってコミュニケーションが図れる様に関わっている。また必要に応じて食卓の席の配置を替えるなどして孤立せず支え合えるような支援に強めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も家族、包括などと連携を取って在宅での生活の継続が維持出来る様な支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの生活史を把握し、理解するように努め、本人、家族の要望に合せた取り込みを行なっている。 (外部評価) 人前では遠慮して思いを伝えてくれないことが多いので、入浴や散歩等の機会をとらえて聞き取ったり、日頃の言動や表情等からも汲み取るよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメント等による情報、その他の情報把握に努め、出来るだけ今までの生活に近い生活が送れる様環境を整えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りの徹底、記録の充実によって現状の把握は行なえている。またやさしい声かけや寄り添う事によって心身状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族を交えてのカンファで希望、要望を聞きだしケアプランを作成している。家族が参加出来ない場合電話にて聞きプランに盛り込むようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向・要望を聞き取り、介護計画に反映させるよう努めている。また、利用者の状態に変化があった場合は速やかに計画を変更する等、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日一人ひとりのケース記録があり、本人、家族が言った言葉をそのまま記録し、職員が情報を共有しプランの見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の希望に応じて柔軟なサービスを提供できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 昨年後半は新型インフルエンザの流行により、余り地域との交流は出来なかった。可能な限りでの資源活用を支援して行きたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所の際本人、家族の希望を伺い主治医を決めてい る。救急時には施設内のドクター、ナースとの連携のもと 安心して医療を受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医を受診でき るよう支援している。また、代表者は医師であり、常に 連絡が取れる体制を整えている。他の医療機関との連 携・協力もしっかりできており、利用者や家族にとっ て安心できる環境が整っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 老人保健施設と併設されている為24時間体制でナ ースの対応が可能となっている。常に情報を共有し必要 に応じて利用者が、適切な受診、看護が受けられるよ うに支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 常時医療機関との連携は取れている。入退院時には情 報交換を行い連携を密にして関係作りを行なってい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合早い段階から対応、方針の共有を図っ ている。その都度主治医からの説明を家族と共に受 け、事業所で出来る事の説明を充分行い、医療、家族 と連携を取って終末期を迎えられるよう支援してい る。</p> <p>(外部評価) 母体が医療法人であるため、職場内研修は看護師等の 医療従事者を講師として定期的に行われている。早い 段階から医師による説明も行い、家族も医療体制が充 実していることに安心感を持っている。また、職員だ けでなく利用者も一緒にお見送りをしてもらおう等、精 神的な支援体制も充実している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設の職員全体で勉強会を行い応急や初期対応の訓練を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年2回の消防訓練を行なうと共に消防署からの指導を仰いでおり、地域との協力体制を築く事が出来る様働きかけている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、火災を想定した訓練を定期的実施している。現在、地震についてのマニュアルを作成しているところである。また、ホームを災害時の避難場所として提供する等、協力を依頼するだけでなく地域の一員としての役割を担い、地域との協力体制を構築するよう努めている。	現在取り組んでいる地震対応マニュアルの作成をすすめ、利用者がさらに安心して生活できるような体制を確保することを期待したい。また、緊急連絡網を活用しての訓練など、さまざまな場面や状況を想定して訓練を実施していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人権を尊重し、思いやりのある言葉かけをする様、努めている。 (外部評価) 職員の声かけや態度等で気になったところは、管理者がその都度注意している。職員は、個人記録が他者の目に触れないよう細心の注意を払っている。写真を使用する場合も、利用者や家族に確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の趣味、嗜好を取り入れ、過して頂ける様にしている。また、表情や表現で思っている事が理解できる様努めている。自己決定の支援は出来る限りで働きかけていると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切に希望に沿える様努めている。レク等も本人が拒否される様なら無理強いはしない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行事や外出時、服装に注意し、化粧等もして頂いている。また、理・美容にも訪問という形で、リフレッシュして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根切り等、出来る事を手伝って頂いている。また、月に1回利用者の希望をつのり、夕食作りや昼食作りを行なっている。	
			(外部評価) 利用者にも、簡単な食材の準備や後片付け等を無理の無い範囲で手伝ってもらっている。偏食のある利用者にもバランスよく食べてもらえるよう、職員が優しく声をかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の管理の下、栄養・水分量には注意を行なっている。また、補助食品等で必要な栄養を補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) うがい薬やガーゼによる口腔ケア等、利用者にあった口腔ケアを個人的に行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人に合った排泄の仕方を行なっている。改善された方もいらっしゃる。オムツ・パットの使用を減らす努力、また一部介助に向けた取り組みを行なっている。	
			(外部評価) 利用者の排泄のパターンを把握し、日中はトイレ誘導を基本としている。夜間は睡眠の妨げにならない範囲でトイレ誘導を行う利用者もいる。オムツやパッド、ポータブルトイレの使用等、利用者の状態に応じた方法を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) その人に合った自然排便を促す様にしている。また、センナ茶や下剤等にて対応する場合もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日や時間は決められている。容量が大きい為、仲の良い利用者の方は、昔の銭湯の様にして会話を楽しまれている。	
			(外部評価) 介助が必要な利用者が多く、ユニットによってタイプの違うリフトが設置されており、利用者の状態に合わせて負担感なく入浴できるよう使い分けている。浴室や浴槽が広く、ゆったりと入れるよう環境が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の状態や希望により、臥床や休息をしたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報を指導により頂き、不明な場合は確認している。飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みは行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日継続的に行えてはいないが、絵の好きな方には絵を書いてもらったりと趣味を取り入れた支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出計画を立て、ドライブ等行なっている。普段の外出については、建物上、内庭や屋上への散歩という形しか行なえていない。	
			(外部評価) 利用者の行きたいところ等を聞き取り、併設施設の車を借りてスーパーやコンビニエンスストアに買い物に行ったり、喫茶店に行くなどしている。また、駐車場横には畑や庭があり、日光浴等も楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々人のレベルにより、小遣いとして所持され、ジュースやTEL代にて使われている方もいる。希望時には引き出せる預り金もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時、TELを出来る様支援している。また、年賀状も書いて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節毎に飾りつけや写真展示行なっている。また、毎日の掃除にて清潔を保っており、共用のフロアも広くて明るい場となっている。	
			(外部評価) 共用空間がとて広いとため、殺風景にならないようにいたるところに季節を感じさせる飾りや行事の写真、利用者の作品等が飾られ、華やかである。テレビを見るスペースや足を伸ばして座れる畳の間等、利用者が自由にゆったりと過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを数多く設置し、共同空間でも一人の時間や仲の良い利用者同士で話しが出来る環境を作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の以前からの愛用品を入所時、持ってきて頂いている。また、飼っていた犬の写真や家族の写真も居室に貼ったりされ、心地良い生活が営める様、努めている。	
			(外部評価) ベッド等は備え付けているが、使い慣れた家具やお気に入り等の置物等を、利用者の状態や希望に合わせてもち込み、自由に配置している。利用者の私物を保管できる倉庫があるため、居室を広々と活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 全室バリアフリー、手すりが至る所にある。車椅子同士がすれ違う廊下の広さもある。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9-29
自己評価作成日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族との信頼関係に力を入れている。また、本人の能力や特技を把握し、生きがいのある生活が送れるよう、取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であるため、利用者や家族は医療的な安心感を求められることが多く、ホームもそれを最大の特徴として認識し、ニーズに答えられるよう職員の質の向上のための研修を行う等、体制を整えている。介助が必要な利用者が多く、ユニットによってタイプの違うリフトが設置されており、利用者の身体状況に応じて、安全に入浴できるように設備も整えている。管理者を中心に職員全員で情報を共有しながら、利用者本位の支援ができるよう日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) のぎく

記入者(管理者)

氏名 丹下 実子

評価完了日 H22 年 1 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所独自の理念を皆で作成し、管理者・職員で毎朝申し送り後に復唱し、実践につなげる様に努力している。	
			(外部評価) 開設時に職員で作上げた理念を、申し送り時に復唱する等職員全員で共有して実践につなげている。また、各ユニットの見えやすい位置に貼り、常に意識できるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に参加したり、事業所主催の行事には参加の呼びかけを行い、利用者が地域との交流を持てる工夫や機会を設けているが、日常としては職員が通りがりに挨拶する程度で常時の交流は出来ていない。	
			(外部評価) ホームの夏祭りに近所の方にも来てもらったり、町内会長と連絡を取り合い、秋祭りで獅子舞を近所の方と一緒に見たりしている。また、ホームの庭や駐車場は近所の方の散歩コースになっていたり、親子で三輪車で遊ぶなど、自由に出入りしてもらっている。	複合施設であるため、日常的なつきあいは難しいところもあるが、現在行っているような活動を通して交流をさらに深めていくことを期待したい。また、近くの幼稚園や小学校との交流も利用者にとってよい刺激になると思われるので、試行されることも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して施設の実践経験を活かし、地域におけるケアの拠点として機能して行ける様に努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の現状や行事報告、施設での問題点や外部評価報告を行い、それに対する役員さんの意見をもとに改善策を話し合い、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 地域の方や家族等、多数の参加を得て、利用者の様子やホームの状況等を報告し、活発な意見交換をしている。また、地域行事の情報収集や参加依頼等も会議を通して行い、サービスの質の向上のために有効に活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者と日頃から連絡を取り、ケアサービスの取組みや困難事例の相談をさせて頂き協力関係が出来ている。	
			(外部評価) 運営推進会議にも積極的に参加し、意見等も出してくれている。困難事例の相談も気軽にでき、どんなことでも丁寧に対応してくれ、良好な協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会やパンフレットで身体拘束における禁止行為を把握している。居室やユニット玄関なども施錠しておらず、心身ともに拘束しないケアに日常取り組み実践している。	
			(外部評価) 複合施設の構造上の理由から、ホームのある3階部分だけのロックを外すことが不可能であるため、出入口は施錠されている。外出可能な利用者には、解除番号を教えたり、職員が常に気をつけてロックを解除するようにしている。身体拘束については勉強会を行い、職員全員で学習している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設勉強会や外部研修により、虐待にあたる行為の認識を理解している。毎日の身体観察、記録、各々の声を大切にする事によって防止に繋がり、見過ごさない、見逃さない結果になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について施設間での研修で学んだが、必要と思われる利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に訪問調査を行い、その場で家族、利用者を変え、十分な話し合い、又、不安に対する説明をし、理解や納得を図っている。重度化に伴う説明も同時に説明させて頂き同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の意見はスタッフを通じ、又意見箱を設置し、対応している。 (外部評価) 意見箱を設置し、また家族の来訪時や電話で連絡する際に意見や要望を聞いている。家族とは気軽に話せる関係ができており、意見や要望は管理者や職員に直接伝えてくれている。出された意見や要望は会議等で検討し、運営に反映するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者からの説明を十分に受けており、また、職員間で出た意見については管理者へ提案や意見を出し反映させている。 (外部評価) 毎月管理者も参加してユニット会を開催し、職員からの意見等を聞き取っている。必要なことは管理者から代表者に伝え、代表者からの回答も職員に伝えている。管理者は、職員が意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々がゆとりを持って利用者と接し、ケア出来る様人員の確保など、環境を整えてもらっている。又、管理者の職員に対する勤務状況や実績の把握により労いの言葉をかけてもらう事で、向上心を持ち働く事が出来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回、勉強会を設け、そこで学んだ事を実践に活かせるような取り組みをしている。まだ、外部研修や講演会のお知らせ、資格取得の誘致なども出来るトレーニングを教えてもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 一部の職員（グループホーム会参加者）以外の職員は外部の同業者の交流は持っていない。当施設には老健やデイがあるので、それぞれの部署職員と交流する事で情報交換でき、質の向上が出来ている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から利用に至るまでは、管理者が聞き取りをし、困難な状況の把握に努めている。入居後は、事前情報をもとにし、職員の声かけを加えご本人の求めを聞き、安心の確保、又信頼関係に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が安心して任せれる為に、十分なコミュニケーションをとりながら、家族の不安や要望に耳を傾け、信頼関係を築くよう努めている。又、更に結果報告を必ず行い、信頼を固めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 心の声と言葉では相違がある事もあり、状況に応じ色々な観点から考慮、検討し、対応している。又、デイケアのゲームに参加してもらおう等、その時、必要と思われる事を支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔ながらの知恵を教えてもらうなど、学ぶべき時が多くある。又、一方的な介護者の立場ではなく、互いの経験や個性を活かして、喜怒哀楽を共にする日常が送れている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に、利用者の日常報告をもとに、利用者の性格や気質等をアドバイス頂いたり、ご協力下さる事によって、家族さんと共に支援出来ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 職員が個別に馴染みの場所にお連れしたり、面会の機会を設ける支援は出来ていないが、字の書ける人は、家族や友人に手紙を書くような計らいをしたり、ご家族の協力のもと、お墓参りなど継続が出来ている。 (外部評価) 利用者にとって大切な人に会いに行ったり、ドライブを兼ねて以前住んでいた地域に行くなどしている。また、新たな馴染みをつくるために併設施設の行事に参加する等、意識的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、食事の席を工夫したり、レクリエーションや団らんの場で、職員仲介のもと、孤立防止に努めているが、一人の入居者の方のみ、入居者間でのトラブルもあり、支え合う事が困難となっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 自宅の近くのグループホームに移って行かれたかたがあったが、本人の状況、習慣、好みや今までのケアの情報を伝え、移り住む事のダメージを最小限に食い止める事ができた。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の声、訴えを大切にし、思いをすぐに出来る事、出来ない事への検討に繋げており、スタッフだけでは判断しかねる場合は、管理者や家族さんと相談しながら、本人本意に検討し意向に沿っている。	
			(外部評価) 人前では遠慮して思いを伝えてくれないことが多いので、入浴や散歩等の機会をとらえて聞き取ったり、日頃の言動や表情等からも汲み取るよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サマリーやフェースシートをチェックしたり、ご本人・ご家族より情報収集をし、個々の過去を知り、現在を把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ひとりひとりの1日のペース、過ごし方の把握は出来ており、日常の会話、観察、職員同志の情報交換をする事で、現状の心身状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に一度、サービス担当者会議を設け、本人・家族の要望をお聞きし、より自分らしく暮らす為の課題を紐出し、管理者以外スタッフで話し合ったり、必要であれば、主治医、ナースと連絡をとるなどをして、プランを作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向・要望を聞き取り、介護計画に反映させるよう努めている。また、利用者の状態に変化があった場合は速やかに計画を変更する等、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画、目標等に沿った日常を個別記録、生活か夜勤記録に記入しており、職員同志の共有や実践、又、改善にも繋がっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望、状況変化に応じて、それに合った支援をしている。又、施設の広さや多種類のリハビリ器具を用いてのサービス多機能化にも取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事の際にはボランティア協賛、又、定期的に消防の協力を得て、消防の避難訓練を行っている。安全で豊かな暮らしが出来るよう、心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び、家族の希望を尊重し、それぞれのかかりつ け医の確保が出来ており、また、直接、医師・ナース と24時間相談出来る体制ができており、急な体調変 化に対応する支援が出来ている。歯科は往診もある が、かかりつけに行っている方もあり、本人の意向に 沿った支援をしている。 (外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医を受診でき るよう支援している。また、代表者は医師であり、常 に連絡が取れる体制を整えている。他の医療機関との連 携・協力もしっかりできており、利用者や家族にとっ て安心できる環境が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 2階ナースに特変時には、すぐさま対応してもら う事が出来ている。また、日常的に相談する事もでき、利 用者が適切な受診や看護を受けられるような体制が整っ ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、家族や病院関係者と話し合い、精神的 なケアも含め、情報交換、状況把握、また早期退院に 向けての相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、医師、管理者、職員、可能であれば、本人を含 め、十分な話し合い、全員で方針を共有している。 (外部評価) 母体が医療法人であるため、職場内研修は看護師等の 医療従事者を講師として定期的に行われている。早い 段階から医師による説明も行い、家族も医療体制が充 実していることに安心感を持っている。また、職員だ けでなく利用者も一緒にお見送りをしてもらう等、精 神的な支援体制も充実している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は行えていないが、マニュアルが作成されており、一読し理解しているが、いざという時にこなせるかという不安もある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、昼夜それぞれに設定し、消防署の指導のもと、災害訓練を行っており、避難方法を全職員が把握し、迅速且つ安全に避難できるよう実践している。また、地域との協力体制も築けている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、火災を想定した訓練を定期的実施している。現在、地震についてのマニュアルを作成しているところである。また、ホームを災害時の避難場所として提供する等、協力を依頼するだけでなく地域の一員としての役割を担い、地域との協力体制を構築するよう努めている。	現在取り組んでいる地震対応マニュアルの作成をすすめ、利用者がさらに安心して生活できるような体制を確保することを期待したい。また、緊急連絡網を活用しての訓練など、さまざまな場面や状況を想定して訓練を実施していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症であっても、ひとりの人間とし、また人生の大先輩として尊重し、その人に合った声かけ、対応をしている。個人情報の取り扱いには細心の注意をし、厳重に保管している。 (外部評価) 職員の声かけや態度等で気になったところは、管理者がその都度注意している。職員は、個人記録が他者の目に触れないよう細心の注意を払っている。写真を使用する場合も、利用者や家族に確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝の更衣時には服を選んで頂いたり、おやつ時には飲み物の選択、美容の決定、余暇の過ごし方も出来るだけ選択して頂くなど、声かけ、問いかけにより、自己決定して頂くよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員サイドの都合を優先してはいないが、共同生活をするにあたり、ある程度の決まり事はある。その中で、なるべく各々の希望に沿えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や外出時等、本人と一緒に洋服のコーディネートをしたり、女性はイベント時に化粧をしたり、マニキュアをしている。理容・美容は本人の希望通りにカット、カラー、パーマをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 限られた利用者であるが、もやしの根切りやごぼうのささがき等食事準備を一緒にしたり、片付けの食器拭きをして頂き、その人の持った力を活かしている。他、飲酒により、楽しみを持って頂く工夫をしている。 (外部評価) 利用者にも、簡単な食材の準備や後片付け等を無理の無い範囲で手伝ってもらっている。偏食のある利用者にもバランスよく食べてもらえるよう、職員が優しく声をかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスは、管理栄養士が考えて献立をたてている。毎日、食事摂取量はチェックしており、一人ひとりの摂取量を把握した上での声かけ、水分の声かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個人で出来る、出来ない、チェックが必要・・・等状況に応じた口腔ケアをしている。口腔内の清潔を保つために義歯の洗浄もまめに行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 各々の排泄パターンを把握し、声かけ。誘導を行う事により、オムツ減らしが出来ているが、タイミングが合わず、失敗する事もある。しかし、誘導によって、オムツ減らしだけでなく、尿意・便意のない方でもトイレでの排泄が可能になる場合も多くある。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者の排泄のパターンを把握し、日中はトイレ誘導を基本としている。夜間は睡眠の妨げにならない範囲でトイレ誘導を行う利用者もいる。オムツやパッド、ポータブルトイレの使用等、利用者の状態に応じた方法を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 運動不足、水分・野菜不足等、個々の原因と予防に対し、検討し取り組んでいる。薬に頼らず何が出来るかを考え、解消に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 曜日や順番があり、ある程度の取り決めを行っているが、利用者の生活力に繋がっており、問題ない。ラジオや入浴剤を用いて、楽しく入浴して頂けるよう、支援している。	
			<p>(外部評価)</p> 介助が必要な利用者が多く、ユニットによってタイプの違うリフトが設置されており、利用者の状態に合わせて負担感なく入浴できるよう使い分けている。浴室や浴槽が広く、ゆったりと入れるよう環境が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 就寝時間、昼寝と本人に合った時間、希望を聞き入れ、行っている。また、快適に休まれるよう、リネン交換、空調にも注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の有無や内容量等は把握し、誤薬なきよう実行しているが、効能・効果までは、記憶出来ていない。変化については、記録、様子観察、報告を心がけ、確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器拭き、おしぼりたたみ、ごみ箱作り、食事準備、日曜大工（こわれた物を直す）等、役割を持った生活をして頂ける支援をしている。趣味の時間を満喫したり、気分転換として散歩や団らんの時間を設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に沿う外出は出来ていないが、行事としての外出や、本人の希望がある場合は、家族に協力して頂き、なるべく本人の希望に沿えるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の行きたいところ等を聞き取り、併設施設の車を借りてスーパーやコンビニエンスストアに買い物に行ったり、喫茶店に行くなどしている。また、駐車場横には畑や庭があり、日光浴等も楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 移動バン屋や外出時等は小口資金からお金を渡し、本人に支払いをして頂いている。また、個人保管可能な利用者は所有されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話を取り次いだり、かける支援を行っている。また、1階事務所にポストを設けており、自由に手紙の投函ができ、電話、手紙共に支援が出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ユニット玄関やフロア、居室の入り口等、季節に応じた飾り付けをしている。フロアと台所が同じ空間にある為、料理のにおいなど生活感を感じてもらえている。刺激に対しても空調、遮光等、快適に過ごして頂く為の配慮している。	
			(外部評価) 共用空間がとても広い為、殺風景にならないようにいたるところに季節を感じさせる飾りや行事の写真、利用者の作品等が飾られ、華やかである。テレビを見るスペースや足を伸ばして座れる畳の間等、利用者が自由にゆったりと過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを設置し、居室以外での居場所を作っているが、殆ど居室又は、テーブルの定位置にて過ごされている。その方が落ち着くらしい。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベット、タンス以外は本人が使用していた家具を設置したり、本人や家族と相談の上、居心地のよい居室にしている。	
			(外部評価) ベット等は備え付けているが、使い慣れた家具やお気に入りの置物等を、利用者の状態や希望に合わせてもち込み、自由に配置している。利用者の私物を保管できる倉庫があるため、居室を広々と活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、台所、ホール、他ユニットへの出入りが自由に且つ安全に出来るよう工夫されており、障害物、危険のないような配慮の他、庭の整備等、十分な環境作りが出来ている。	